

・被害者団体の資料整理参加感想文 参考文献

記録を後世に遺し伝えることは、風化させないことの大前提であり、
薬害再発防止の礎である。
(栗原さん感想文より)

1. 被害者団体の資料整理参加感想文

【薬害科研に至る経過と活動内容、及び作業の感想】

MMR 被害児を救援する会事務局長 栗原敦 2015.2

1983年に息子がワクチン副作用被害に遭遇し、そのワクチンが混合され、原因となってMMRワクチンが社会問題化していた1933年頃に、京都府衛生部がまとめた『京都ジフテリア予防接種禍記録』（1950年）があることを知った。その後まもなく、その原資料とみられる京都府庁文書が同府立総合資料館に収蔵されていることも知った。しかしながら目前のMMR事件にとらわれていたため、それらの閲覧は、10年余の後（2005年春）であり、その前年3月にジフテリア事件被害者に会ったことが契機となった。

その方は、『69人目の犠牲者 京都ジフテリア予防接種禍事件』（ウィンかもがわ、2003年9月）の著者、田井中克人氏である。並行して、続々と同事件の行政資料等の存在が明らかになっていく。厚生労働省地下書庫に事件当時の簿冊約10冊、後に健康局のフロアから刑事訴訟の京都地裁判決謄本もてきた。京都地方検察庁に刑事訴訟の記録、島根県庁文書3冊、国会図書館憲政資料室のGHQ/SCAP文書、プランゲ文庫、さらに京都市役所にマイクロフィルム2巻約5千コマ（近年、マイクロ化されなかった文書が2箱、同市の地下倉庫内）また大阪府庁文書にもという具合に発見された。しかしこれらは国・府県市の側の資料であり、残念ながら今のところ、事件当時の「被害者同盟」や「遺族会」という側のまとまった資料は確認されていない。

2004年、府立総合資料館にお願いして、京都府庁文書の外観を見せていただいた。また田井中氏の著作に関心をもった医大生と出会う中、真相が明らかにされぬまま忘れ去られようとしていた事件の、1千名近い幼子たちの身の上で起こった災難が記録された文書群、今を生きるその被害者、そして未来の医療従事者がつながる、その奇跡の瞬間を感じた（田井中氏の2作目『京都予防接種禍事件 69人目の犠牲者』2005年8月、新風社文庫、巻末の解説）。以上の経緯で、戦後薬害1号事件の資料消失と忘却に歯止めをかけ、真相解明の道がつけられ、予防接種行政、薬事行政上の危機管理、薬害再発防止にむけた研究の素材が確保されたといえよう。

府立総合資料館所蔵の京都府庁文書は、同館の内規により、長期にわたって非公開とされていたが、年度途中にも係わらず、同館歴史資料課は、当方の要望に応じ、公開に向け複製、マスキング、件名目録作成に果敢に取り組み、2005年4月に閲覧可能としたことはきわめて高く評価されるものであった。

そのご担当の一人、渡邊佳子氏より法政大学「環境アーカイブズ」の金慶南氏を紹介され、スモン・サリドマイド両薬害事件の資料が保存されていることを知る。この出会いが、2013（平成25）年度に始まる厚生労働科学研究「薬害に関する資料等の調査・管理・活用に関する研究」につながる。

2010年4月の、薬害肝炎事件の検証等の結果として「最終提言」を受け、厚労省が同年末には中学校社会科副教材『薬害って何だろう？』（のちに改題され『薬害を学ぼう』）を完成し、翌11年から毎年、全国の中学校3年生全員に配布を続けている。「薬害に関する資料の調査・目録作成」を行うとし、そのためのマニュアル作り等が法政大、金慶南氏の研究班に委託された（通称、薬害科研）。研究成果としてのマニュアルにより、2014年、全国薬害被害者団体を構成する各団体において、保有資料の目録づくりが進められてきた。また、並行して、緊急性を要することとして、被害者の証言映像を撮影することにも着手、スモン事件被害者5名の方々の記録が進行している（2015年、2月～3月）。

これまで、研究班関係者と被害者団体（一部弁護団も含め）厚労省担当者が2013年8月、2014年8月の2回、学習、意見交換等を行う過程で、資料保存への認識を深めつつ、それぞれの団体の作業を進めてきた。また、その過程で、筋短縮症事件の訴訟記録が大阪の某法律事務所に保管されていることが判明し、薬害C型肝炎訴訟弁護団基金の支援を受け、キャビネット3台分、廃棄の可能性がある資料が、薬害筋短縮症の会に移管された。また、山梨県の関係者が保管していた同事件の被害児の親たちの組織の資料も、段ボール箱2箱分も同会に移管されるという幸運な出来事（散逸・消失の回避）があった。そして確認された資料がひとつの資料群として一体化したことは意義深い。

筆者は、自らのMMR被害児を救援する会のほか、薬害筋短縮症の会及びNPO京都スモンの会が保有する資料の整理、目録作成にも関与した。いずれの会の作業も進行中ではあるが、資料目録を見た

けでも、それぞれの被害者団体の活動の概要や違いが見えてくるのではなかろうか。あるいは、体系的に保存された資料の目録は、それを見ただけでも運動の手法を伝えてくれるのではないか。京都スモンの会には、関係者が節目節目の行動を記録した8ミリフィルムが残されていた。そのデジタル変換の作業を通じ、生々しく被害と被害者運動を「感じる」ことができた。

今回の作業を通じて、「記録し、利用しやすいように残すことは偉大なこと」だと実感したものであった。未来に残すことを意識しつつ行動し、記録する必要を学んだ次第である。

このような経過と並行して、MMR 事件に関して、神奈川県公文書館に保管されていた県庁文書から、同県内の MMR ワクチン被害児たちが受けた医療の程度（入院・通院日数や医療費の負担額など）を具体的に知ることができた。団体保有の資料整理とともに、行政資料の開示請求の取り組みが緊急の課題であることも痛感することとなった。

記録を後世に遺し伝えることは、風化させないことの大前提であり、薬害再発防止の礎である。

【作業の感想を寄せられた他の団体】

今回、文書の整理をすることで、27年間で様々な資料が大量に保管されていたことを改めて知ることになりました。まだまだ時間がかかりそうです。（陣痛促進剤による被害を考える会）

目録作成の進捗ですが、多忙の為作業が進んでいません。又集まった時に検討する所存です。（薬害ヤコブ病被害者・弁護士全国連絡会議）

この度の目録作成は資料保存のための有意義な仕事であり、頑張っておりますが、当団体は50年の歴史があり、資料の選別作業も大変です。その過程で気づいたことは、昭和40年代前半は患者の発症数が多く、闘争中心の時代であったので、文書があまり残されていないということがわかりました。（NPO 京都スモンの会）

2. 参考文献 (書名、著者・編者、出版者、発行年)

<記録学関連図書>

- 『史料館・文書館学への道 記録・文書をどう残すか』、安澤秀一、吉川弘文館、1985年
- 『史料保存と文書館学』、大藤修・安藤正人著、吉川弘文館、1986年
- 『記録管理と文書館：国際文書館評議会派遣使節第1回文書館振興国際会議報告集』、ICA Mission 受入実行委員会編、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会、1987年
- 『記録管理システム』、ウィリアム・ベネドン著；作山宗久訳、勁草書房、1988年
- 『レコード・マネジメント：記録管理学会誌 = Records management : journal of the Records Management Society of Japan』、記録管理学会 編、記録管理学会、1993年
- 『地域文書館論』、高野修、岩田書院、1995年
- 『記録史料の管理と文書館』、安藤正人、青山英幸編著、北海道大学図書刊行会、1996年
- 『草の根文書館の思想』安藤正人、岩田書院ブックレット3、岩田書院、1998年
- 『記録史料学と現代：アーカイブズの科学をめざして』、安藤正人著、吉川弘文館、1998年
- 歴史人類学会編『国民国家とアーカイブズ』(日本図書センター、1999年11月)
- 『記録史料記述の国際標準』アーカイブズ・インフォメーション研究会編訳、北海道大学出版会、2001年
- 『情報公開制度のための文書管理：行政編』、紀伊國屋書店、2001年
- 『組織のための知的資産の蓄積と伝承：企業編』、紀伊國屋書店、2001.2
- 『近現代史料の管理と史料認識』鈴江英一、北海道大学図書刊行会、2002年
- 『文化情報学 人類の共同記憶を伝える』安澤秀一・原田三郎編著、北樹出版、2002年
- 『日本のアーカイブズ論』全史料協編、岩田書院、2003年
- 『アーカイブズの科学』、国文学研究資料館史料館編、柏書房、2003年
- 『アーカイブ事典』小川千代子・高橋実・大西愛、大阪大学出版会、2003年
- 『地域と歩む史料保存運動』越佐史料調査会編、岩田書院ブックレット9、岩田書院、2003年
- 『電子媒体による公文書等の適切な移管・保存・利用に向けて：調査研究報告』、国立公文書館、2006年
- 記録管理学会・日本アーカイブズ学会共編『入門アーカイブズの世界 記憶と記録を未来に』(日外アソシエーツ、2006年)
- 『入門アーカイブズの世界：記憶と記録を未来に：翻訳論文集』、記録管理学会、日本アーカイブズ学会共編、日外アソシエーツ、2006年
- 『The 2nd Asia-Pacific conference for archival educators and trainers "The archival science and archival education in the electronic age" professional seminar = 第2回アジア太平洋アーカイブズ学教育国際会議「電子時代におけるアーカイブズ学研究とアーカイブズ学教育」専門セミナー』compiled by Masahito Ando, Kaori Maekawa, Akihiro Hirayama, International Council on Archives, 2006年
- 『アーカイブズの眼 記録の管理と保存の哲学』大濱徹也、刀水書房、2007年
- 『明日の図書館情報学を拓く：アーカイブズと図書館経営：高山正也先生退職記念論文集』、高山正也先生退職記念論文集刊行会編、樹村房、2007年
- 『アーカイブへのアクセス 日本の経験、アメリカの経験』小川千代子・小出いづみ編、日外アソシエーツ、2008年
- 『文書管理・記録管理入門：ファイリングからISO マネジメントまで』、城下直之、日外アソシエーツ、2008年
- 『電子文書保存のしくみと実務：記録管理の基本と標準化』、木村道弘・前田陽二・宮崎一哉著、中央経済社、2008年
- 『研究者のためのアメリカ国立公文書館徹底ガイド』、仲本和彦、凱風社、2008年
- 『今、なぜ記録管理なのか=記録管理のパラダイムシフト：コンプライアンスと説明責任のために』、小谷允志著、

日外アソシエーツ、2008年

『アジアのアーカイブズと日本：記録を守り記憶を伝える』、安藤正人著、岩田書院、2009年

『アーカイブズが社会を変える - 公文書管理法と情報革命 - 』松岡資明、平凡社新書、2011年

『つながる図書館・博物館・文書館』石川徹也ほか編、東京大学出版会、2011年

『実践アーカイブ・マネジメント - 自治体・企業・学園の実務 - 』朝日崇、出版文化社、2011年

『マルチレベルモデル入門：実習：継時データ分析』、安藤正人、ナカニシヤ出版、2011年

『電子記録応用基盤に関する調査検討報告書：クラウド時代の安心安全な電子記録管理：電子記録応用基盤フォーラム(eRAP)』、日本情報経済社会推進協会、2011年

金慶南「東日本大震災における震災・原発の記録化事例研究 - 法政大学環境アーカイブズ資料公開室の活動を中心に」『アーカイブズ研究』17, pp.51 - 75、日本アーカイブズ学会、2012年11月

金慶南「歴史の記憶・記録をどう守るのか 公文書レスキュー」『持続可能性の危機 地震・津波・原発事故災害に向き合って』舩橋晴俊・長谷部俊治、御茶の水書房、pp.117-128、2012年9月

『文書と記録のはざままで：最良の文書・記録管理を求めて』、小谷允志、紀伊國屋書店、2013年

『アーカイブズの構造認識と編成記述』国文学研究資料館編、思文閣出版、2014年

『電子記録管理論』韓国国家記録研究院、ソーニン図書出版、2013年

『社会調査事典』社会調査協会編、丸善出版、2014年

杉山弘「東京都立多摩社会教育会館旧市民活動サービスコーナー資料の移管経緯と「市民活動資料・情報センターをつくる会」の活動」、『大原社会問題研究所雑誌』673巻、p.3-9、2014年11月

花田昌宣「水俣学関連資料管理・活用の現状と課題」、『大原社会問題研究所雑誌』673巻、p.10-16、2014年11月

チョ・ヒョン「韓国の民主化運動、過去の継承そして聖公会民主化運動資料館」、『大原社会問題研究所雑誌』673巻、p.17-30、2014年11月

David B. Gracy、*Archives&Manuscripts:Arrangement&Description, SAA, 1977*

Frebric M. Miller, *Arranging and Describing Archives and Manuscripts, The society of American Archives Chicago, 1990*

SusieR, Bock/Lucy M.Krammer/George Miles, *Guide to the Felty S. Cohen Papers WAMSS S-1325, 1991/Revised 2010*

< 薬害関連図書 >

『お前は忘れても、俺は忘れへん 「薬害エイズ」絶望からの闘い史上最悪の医療犯罪の真実』、家西悟、ロングセラーズ、1997年

『ミドリ十字と731部隊 薬害エイズはなぜ起きたのか』、松下一成、三一書房、1996年

『薬害エイズ国際会議』、大阪 HIV 訴訟弁護団、彩流社、1998年

『家西悟全記録 薬害エイズと闘う』、家西悟、解放出版社、2000年

『薬害エイズ裁判史第1～5巻』、東京 HIV 原告団、日本評論社、2002年

『薬害 HIV 感染被害者遺族の人生 当事者参加型リサーチから』、山崎喜比古・井上洋士、東京大学出版会、2008年

『健康被害を生きる 薬害 HIV サバイバーとその家族の20年』、井上洋士・伊藤美樹子、山崎喜比古、勁草書房、2010年

『安部英医師「薬害エイズ」事件の真実』、武藤春光・弘中惇一郎、現代人文社、2008年

『薬害エイズ 終わらない悲劇』、櫻井よし子、ダイヤモンド社、1999年

『健康被害を生きる 薬害 HIV サバイバーとその家族の20年』、井上洋士ほか編、勁草書房、2010年

『日本に生きるということ 薬害エイズ被害者が光を見つけるまで』、川田龍平、講談社、2007年

- 『この国はなぜ被害者を守らないのか子ども被災と薬害エイズ』、川田龍平、PHP 研究所、2013 年
- 『薬害エイズを生きる 帝京大病院血友病患者島田照国の記録』、西野瑠美子、明石書店、1996 年
- 『血の帝国 日米薬害エイズの舞台裏』、マサミ・コバヤシ・ウィーズナー、彩流社、1996 年
- 『新ゴーマニズム宣言スペシャル脱正義論』、小林よしのり、幻冬舎、1996 年
- 『日本のエイズ 薬害の犠牲者たち』、広河隆一、徳間書店、1993 年
- 『薬害エイズ再考 医師から見た薬害エイズの真実』、加沼戒三、花伝社、1998 年
- 『砂時計のなかで 薬害エイズ・HIV 訴訟の全記録』、島本慈子、河出書房新社、1997 年
- 『薬害エイズの真相』、広河隆一、徳間書店、1996 年
- 『いのちの歌薬害肝炎たたかひの軌跡』、山口美智子、毎日新聞社、2010 年
- 『ドキュメント検証 C 型肝炎 薬害を放置した国の大罪』、フジテレビ C 型肝炎取材班、小学館、2004 年
- 『がんばらんと! 薬害に遭って、見えてきたこと』、福田衣里子、朝日出版社、2009 年
- 『薬害肝炎 誰が C 型肝炎を「国民病」にしたか』、大西文恵、金曜日、2005 年
- 『薬害 C 型肝炎女たちの闘い 国が屈服した日』、岩澤倫彦・フジテレビ調査報道班、小学館、2008 年
- 『薬害肝炎とのたたかひ 350 万人の願いをかかげて』、薬害肝炎全国原告団出版委員会、桐書房、2009 年
- 『薬害肝炎裁判史』、薬害肝炎弁護団、日本評論社、2012 年
- 『薬害ヤコブ病の軌跡 第 1 巻 裁判編』、薬害ヤコブ病被害者弁護団全国連絡会議、日本評論社、2004 年
- 『薬害ヤコブ病の軌跡 第 2 巻 被害・運動編』、薬害ヤコブ病被害者弁護団全国連絡会議、日本評論社、2004 年
- 『薬害ヤコブ病 見過ごされた警告』、井元里土、かもがわ出版、1999 年
- 『心の叫び 薬害ヤコブ病裁判解決へのみちのり』、薬害ヤコブ病大津訴訟弁護団、かもがわ出版、2003 年
- 『いのちを返せ! ドキュメント薬害ヤコブ病とたたかひたつた人びと』、矢吹紀人・薬害ヤコブ病闘いの記録編集委員会、あけび書房、2004 年
- 『薬害シンドロームを絶て! くりかえされた悲劇薬害ヤコブ病』、薬害ヤコブ病問題シンポジウム実行委員会、ケイ・アイ・メディア、2000 年
- 『注射による筋短縮症、注射による筋短縮症全国自主検診医師団学術調査委員会』、三一書房、1996 年
- 『筋短縮症 つくられた障害児たち』、注射による筋短縮症から子供を守る全国協議会、績文堂出版、1977 年
- 『山梨筋短縮症裁判の記録』、山梨筋短縮症裁判弁護団、日本評論社、1994 年
- 『薬害スモン』、亀山忠典、大月書店、1977 年
- 『薬害を負うて行く』、横山悦子、鶴書院、1997 年
- 『岩手スモン運動誌失われた時の叫び 薬害スモンとの闘いと其の軌跡』、帷子貢、岩手スモンの会、2000 年
- 『スモン被害 薬害根絶のために』、高野哲夫、三一書房、1979 年
- 『空前の薬害訴訟 「スモンの教訓」から何を学ぶか』、泉博、丸ノ内出版、1996 年
- 『スモン・スキャンダル 世界を蝕む製薬会社』、オッレ・ハンソン、朝日新聞社、1978 年
- 『裁かれる現代医療 スモン・隠れた加害者たち』、高橋暁正・水間典昭、筑摩書房、1981 年
- 『スモン事件と法』、淡路剛久、有斐閣、1981 年
- 『スモン訴訟の記録』、スモン訴訟東京弁護団、スモン訴訟東京弁護団、1983 年
- 『薬害スモン全史全 4 巻』、スモンの会全国連絡協議会、労働旬報社、1981 年
- 『グラフィック・ドキュメントスモン』、羽賀しげ子・実川悠太・小林茂、日本評論社、1990 年
- 『神と悪魔の薬サリドマイド』、Rock Brnner, Trent Stephens、日経 BP 社、2001 年
- 『サリドマイドと医療の軌跡』、栢森良二、西村書店、2013 年
- 『サリドマイド物語』、栢森良二、医歯薬出版、1997 年
- 『サリドマイド事件全史』、川俣修壽、緑風出版、2010 年
- 『不思議の薬 サリドマイドの話』、鳩飼きい子、潮出版社、2001 年
- 『薬品公害と裁判 サリドマイド事件の記録から』、藤木英雄・木田盈四郎、東京大学出版会、1974 年

『サリドマイド 科学者の証言』、増山元三郎、東京大学出版会、1971年

『イレッサ薬害 判決で真実は明かされたのか』、片平冽彦、桐書房、2013年

『陣痛促進剤あなたは どうする お産の前に一番大切なことについてきちんと説明を受けていますか?』、陣痛促進剤による被害を考える会、さいろ社、2003年

『病院で産むあなたへ クスリ漬け出産で泣かないために』、陣痛促進剤による被害を考える会、さいろ社、1995年

『薬害はなぜ隠されたのか “生け贄”にされた医師の告発』、水沢溪、三一書房、1997年

『タミフル薬害 製薬企業と薬事行政の責任と課題』、片平冽彦、桐書房、2009年

『知っておきたい薬害の教訓 再発防止を願う被害者からの声』、医薬品医療機器レギュレーターサイエンス財団、薬事日報社、2012年

『ノーモア薬害 薬害の歴史に学び』、その根絶を、片平冽彦、桐書房、1997年

『薬害過失と因果関係の法理』、塩野隆史、日本評論社、2013年

『和英対訳日本の薬害事件 -薬事規制と社会的要因からの考察』、一般財団法人医薬品医療機器レギュレーターサイエンス財団、薬事日報社、2013年

『厚生省薬害史 行政の歪が見えてくる!厚生省薬事関連訴訟の軌跡』、富塚孝、三一書房、1997年

『チバガイギーの内幕 薬害の構造』オッレ・ハンソン、青木書店、1989年

『ハンセン病・薬害問題プロジェクト 作為・不作為へ』、山本務・熱田一信、本の泉社、2007年

『厚生省の「犯罪」 薬害』、毎日新聞薬害エイズ取材班、日本評論社、1997年

『日本の薬害』、高野哲夫、大月書店、1979年

『戦後薬害問題の研究』、高野哲夫、文理閣、1981年

『ドキュメント日本の公害第3巻 薬害・食品公害』、川名英之、緑風出版、1989年

『薬害を追う記者たち』、毎日新聞大阪医療取材班、三一書房、1996年

『薬害の社会学 薬と人間のアイロニー』、宝月誠、世界思想社、1986年

『図解薬害・副作用学 (みてわかる薬学)』、川西正祐・小野秀樹、南山堂、2013年

『薬害はなぜなくなるか 薬の安全のために』、浜六郎、日本評論社、1996年

『ノーモア薬害 薬害の歴史に学び』、その根絶を、片平冽彦、桐書房、1997年

『腐蝕の連鎖薬害と原発にひそむ人脈』、広瀬隆、集英社、1996年

『FDAの知識ジェネリック薬 不安と期待』、石居昭夫、薬事日報社、2012年

『薬害と政治 薬の氾濫への処方箋』、フィリップ・R.リー、紀伊国屋書店、1978年

『薬害 その医学的・薬学的・法学的側面』、曾田長宗・講談社サイエンティフィック、講談社、1981年

『舛添メモ厚労官僚との闘い752日』、舛添要一、小学館、2009年

『厚生労働省戦記 日本政治改革言論』、舛添要一、中央公論新社、2010年

『医療事故・カルテ開示・患者の権利』、石井昭男、明石書店、2001年

『戦後行政の構造とディレンマ 予防接種行政の変遷』、手塚洋輔、藤原書店、2010年

『カルテ改ざんはなぜ起きる 検証:日本と海外』、石川寛俊、日本評論社、2006年

『医療と裁判 弁護士として、同伴者として』、石川寛俊、岩波書店、2004年

『医薬を近代化した研究と戦略』、山下麻衣著、芙蓉書房出版、2000年

『MMR ワクチン薬害事件 新3種混合ワクチンの軌跡』MMR 訴訟弁護団編著、2007年

『大阪社会労働運動史 第9巻』、大阪社会運動協会、2009年

『医薬品の安全性と法 薬学法学のすすめ』鈴木利廣・水口真寿美・関口正人、エイデル研究所、2015年

薬害教育 DVD シリーズ 『温故知新～薬害から学ぶ～』、医薬品医療機器レギュレーターサイエンス財団(旧日本公定書協会)、メディアバンガード(2015.2 現在8巻刊行、続刊)

文献番号

報告区分 総合

研究年度 平成 26(2014)年度

研究課題名 薬害に関する資料等の調査・管理・活用等に関する研究

課題番号 H25-医薬-指定-003

研究分野名 健康安全確保総合研究

研究事業名 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究

研究代表者 金 慶南